

発行通知書

Space-E/

Modeler

Version 5.5

Mold

Version 5.5

ACIS[®]は、Spatial CorporationによってUS Patent and Trade Mark Office（米国特許庁）に商標登録されています。
DXF/DWGは、米オートデスク社の登録商標です。

Contains Autodesk[®] RealDWG by Autodesk, Inc.,

Copyright © 1998-2016Autodesk, Inc., All rights reserved.

Windows[®] 2000、Windows[®] XP、Windows[®] Vista、Windows[®] 7、Windows[®] 8またその他のマイクロソフト製品の
名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他の製品および会社名等は、各社の商標または登録商標です。

■ ご注意

- 本書の内容及びソフトウェアは、予告無しに変更されることがあります。
- 本書の内容は細心の注意をもって作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きの点がございましたら、弊社または販売代理店までご連絡ください。
- 本書に記述するソフトウェアを運用した結果発生する損害につきましては、本書の記述およびソフトウェアの不備にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 本書および本書に記載するソフトウェアは、著作権法上の保護を受けています。
- 株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズに対し文書の承認を得ずに、無断で本書およびソフトウェアの一部あるいは全部について、複写および複製することは禁じられています。

Copyright © 1998 NTT DATA ENGINEERING SYSTEMS Corporation All rights reserved.

目 次

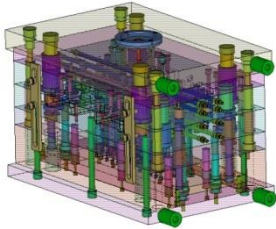
| | |
|---|---|
| 1. Space-E/Modeler Ver.5.5で改良された機能 | 1 |
| 1.1. モデルファイルの読み込み時間の改善 | 1 |
| 1.2. 描画性能の改善 | 2 |
| 2. Space-E/Modeler Ver.5.5で改修された機能 | 2 |
| 2.1. 改修された不具合の一覧 | 2 |
| 3. 動作環境 | 3 |
| 4. 注意・制限事項 | 4 |
| 4.1. 消費メモリを節約したときの速度劣化について | 4 |
| 4.2. 消費メモリを節約したときのタスクマネージャ上の容量 | 4 |
| 4.3. プリセレクトハイライトをオーバーレイに表示する | 4 |
| 4.4. ラバーバンド中のビュー操作 | 4 |
| 4.5. 半透明表示のちらつき | 5 |
| 4.6. 描画の高速化について | 5 |
| 4.7. 描画の高速化の無効と描画データの一時ファイル退避との関連について | 6 |
| 4.8. 断面表示(SCVW)におけるモデルの表示について | 6 |
| 4.9. 面上スプライン修正(ESOF)における、分割点数の設定について | 6 |
| 4.10. ボリュームデフォーメーション(VDM)、レフィット(REFIT)における固定面について | 7 |
| 4.11. レフィット(REFIT)における拘束条件と変形結果の関係について | 7 |
| 4.12. ハッチング(HATC)における対象要素の選択、確定について | 7 |
| 4.13. 簡易電極作成(POCR)、電極作成(ELEC)におけるデータムの設定について | 7 |
| 4.14. 環境バックアップ対象について | 7 |
| 4.15. DXF ファイル読み込み時の線種について | 7 |
| 4.16. 機能使用履歴ログについて | 7 |

1. Space-E/Modeler Ver.5.5で改良された機能

1.1. モデルの読み込み時間の改善

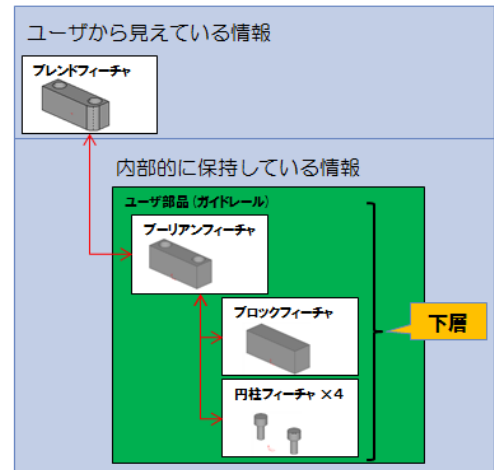
従来、モデル読み込み時に下層フィーチャ情報の復元を同時に行っていたため、モデル読み込み時間が長くなっていました。Ver.5.5 では下層フィーチャ情報を必要とする機能を起動したタイミングで復元することで、モデルの読み込み時間を削減しました。

モデルの読み込み処理時間の例：

| モデル情報 | 改修前 処理時間 | 改修後 処理時間 | 削減率 |
|--|-------------|-------------|-----|
| サイズ：15625KB フィーチャ数：2205  | 58.6 秒 | 7.6 秒 | 80% |

※HP Z230 相当の PC で測定した例

※下層フィーチャ情報とは、Mold のユーザ部品に含まれるフィーチャ構造の下層にあり、内部的に保持されている情報のことです。



1.2. 描画性能の改善

STL モデルでのワイヤー表示の描画速度を改善しました。

制限：

- ・要素数の多いモデルでは改善効果をご確認いただけますが、少ないモデルでは、描画に時間がかからないため、改善効果をご確認いただけない場合があります。

STL モデル描画時のフレームレートの例：

| モデル情報 | 改修前 フレームレート | 改修後 フレームレート | 改善効果 |
|--|----------------|----------------|---------------|
| 頂点数：1809138 面数：3608844  | 2.4 fps | 60.9 fps | 25.4 倍 |

フレームレート：1 秒当たりの描画フレーム数

2. Space-E/Modeler Ver.5.5で改修された機能

2.1. 改修された不具合の一覧

| 機能 | 改修内容 |
|----------------------|--|
| 1 Space-E/Modeler | DWG ファイルまたは DXF ファイルを読み込んだ際に線種が正しく反映されない現象を改善しました。 |
| 2 Space-E/Modeler | スプライン要素を印刷した際に滑らかになる様に精度を向上させました。 |
| 3 Space-E/Modeler | 中国語 OS で日本語要素を含んだ DXF ファイルを開いた際に、文字化けまたは変換できない現象を改善しました。 |
| 4 Space-E/Modeler | 表示モードを「隠線」にした際に不要な線が表示される現象を改善しました。 |
| 5 Space-E/Mold | ユニット部品で部品の寸法を編集すると部品が正しく動作しない現象を改善しました。 |

※Space-E Ver. 5.5 では Space-E Ver. 5.4SP1～SP6 までの改修内容を包含しています。

3. 動作環境

Space-E/Modeler Ver. 5.5を実行するために必要なシステム環境です。

| | |
|--------------|--|
| OS環境 | <ul style="list-style-type: none">• Windows 7 Professional ServicePack1以降(64bit)• Windows 8 Pro (64bit)• Windows 8.1 Pro (64bit) |
| 対応機種 | <ul style="list-style-type: none">• Core 2以上 |
| メモリ | <ul style="list-style-type: none">• 2GB以上(推奨 3GB以上) |
| ディスク容量(スワップ) | <ul style="list-style-type: none">• システム 2GB以上• ページファイル1GB以上 |
| その他(ハードウェア) | <ul style="list-style-type: none">• OpenGLボード• 1280×1024• 65535色以上• 3ボタンマウス• ネットワークボード |
| その他(ソフトウェア) | <ul style="list-style-type: none">• Internet Explorer11 |

※Space-E/Modeler Ver. 5.5 は上記以外での動作保証を行っていません。

4. 注意・制限事項

4.1. 消費メモリを節約したときの速度劣化について

Modeler Ver5.5では、消費メモリを節約するために、形状データの中で、使用頻度の低いデータを一時ファイルに退避しています。要素数が多いと、面のハイライト解除、部分色面の描画において通常より時間がかかる場合があります。

この機能を使用しない場合には“環境設定(ENV)”のリソースタブにある<形状データを一時ファイルに退避させる>のチェックを外してください。

4.2. 消費メモリを節約したときのタスクマネージャ上の容量

“環境設定(ENV)”のリソースタブにある<形状データを一時ファイルに退避させる>を設定した場合、使用頻度の低いデータを一時ファイルに退避しますが、Windows OSがメモリをすぐに解放しないため、メモリの減少をタスクマネージャですぐに確認することができません。

4.3. プリセレクトハイライトをオーバーレイに表示する

“環境設定(ENV)”のダイナミックビュータブにある<プリセレクトハイライトをオーバーレイに表示する>を設定した場合、グラフィックボードの種類やグラフィックドライバのバージョン、またはパソコン本体との相性で正常に機能しないことがあります。正常に機能しない場合には、この設定のチェックを外して使用してください。

なお、Space-Eの推奨ボードでは、この機能が正常動作することを確認しています。

4.4. ラバーバンド中のビュー操作

モデリングモードにおいて、ラバーバンド表示中にビュー管理パネルからのビュー操作および、「再表示」や「ビュー戻る」などの操作を行うと、グラフィックボードによっては表示が正しく行われません。

4.5. 半透明表示のちらつき

クラス色およびグループ色で半透明の設定を行うと、環境により画面のちらつきが発生する場合があります。このちらつきは透明度を変更することにより軽減できます。

透明度は以下のファイルで変更することができます。

¥HZS¥Modeler¥config¥ja_JP.mscodex¥profile¥[使用プロファイル]¥user_modeler.iniのCOLOR_ALPHA_LEVELの値を修正します。設定できる値は、0～255で、数値が大きくなるにつれ透明になります(0:不透明、255:透明、155:デフォルト値)。

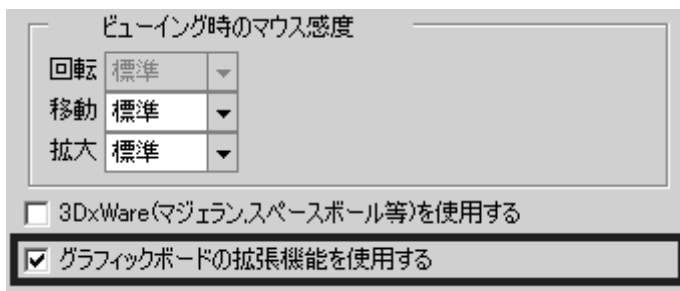
```
rem #-----  
rem # Transparent level  
rem #-----  
set COLOR_ALPHA_LEVEL=155
```

4.6. 描画の高速化について

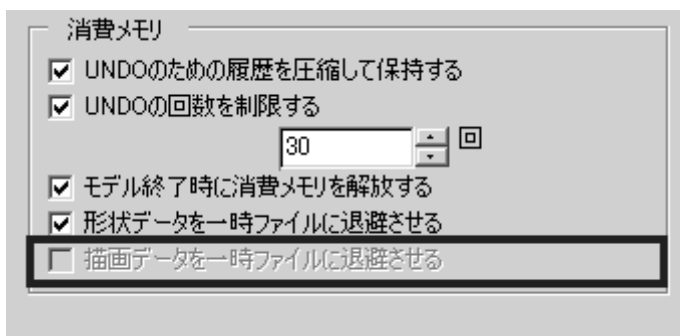
3D描画の高速化機能を使用するには、PCに装着されているグラフィックボードがOpenGL2.0に対応している必要があります。また、グラフィックアクセラレータを使用していない場合は、この機能を使用することができません。

4.7. 描画の高速化の無効と描画データの一時ファイル退避との関連について

描画の高速化機能は“環境設定(ENV)”のダイナミックビュータブにある<グラフィックボードの拡張機能を使用する>のチェックを外すことで無効にすることができます。無効にすると、グラフィックボードのメモリ上にファセット情報を保存できないため、オートバックアップ中にビューイング操作を行うと、要素数の多いデータではオートバックアップが終了するまで、モデルがワイヤー表示となります。



また、描画の高速化機能を無効にすると、“環境設定(ENV)”のリソースタブにある<描画データを一時ファイルに退避させる>のオプションが自動的にOFFになります。このときオプションのチェックボックスは下図のようになり、ONに切り替えることができません。



4.8. 断面表示(SCVW)におけるモデルの表示について

グラフィックボードの種類やグラフィックドライバのバージョン、またはパソコン本体との相性によって、断面表示(SCVW)を実行中に、プリセレクトでハイライトされるべき領域が描画されなかったり、断面を移動させた時にモデルの稜線が残ったりする場合があります。

4.9. 面上スプライン修正(ES0F)における、分割点数の設定について

面上スプラインの選択時に、構成点の間隔が極端に狭くなるような分割点数を設定すると、Modelerが異常終了する場合があります。

4.10. ボリュームデフォーメーション(VDM)、レフィット(REFIT)における固定面について

拘束条件の設定が矛盾していた場合に、矛盾によるうねりの発生が少なくなるように、モデルの変形を行います。固定面が完全に固定されずに膨らみなどが生じる場合があります。

4.11. レフィット(REFIT)における拘束条件と変形結果の関係について

レフィット(REFIT)では、表面の品質を滑らかに保つように変形を行います。設定した拘束条件と変形結果が完全に一致しない場合があります。

4.12. ハッチング(HATCH)における対象要素の選択、確定について

“環境設定(ENV)”の<選択>-<プリセレクトを有効にする>がONのとき、アイテムがハイライトされている状態で、入力エリアに文字を入力してENTERキーを押すと、ハイライトされているアイテムを対象としてハッチングが作成される場合があります。

4.13. 簡易電極作成(POCR)、電極作成(ELEC)におけるデータムの設定について

カレントデータムと初期設定されているデータム「X-Y」が等しくない場合は、正しく電極が作成されない場合があります。

4.14. 環境バックアップ対象について

Space-E/IGESの設定は、環境バックアップ対象ではありません。

4.15. DXFファイル読み込み時の線種について

DXF 2000形式以前のDXFファイルをSpace-Eへ読み込むと、名前に2バイト文字が含まれる線種の要素は必ず実線に変換されます。

4.16. 機能使用履歴ログについて

機能使用履歴がログとして保存されます。コールセンターへの問い合わせ時にはこのログファイルを掲示してもらう事で、状況把握をより早く正確にできるようになり、お客様の問題事項に対し早期解決に繋がります。ログファイルは下記場所に保存されます。

OSドライブ:¥Users¥ログインユーザー¥AppData¥Local¥Temp¥NDES¥Modeler

発行通知書

Space-E/Modeler Version 5.5

Space-E/Mold Version 5.5

初版発行 2016年02月29日

発行 株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズ
〒144-8601 東京都大田区西蒲田7-37-10
